

繰り返さないで! チェルノブイリ・フクシマ

チェルノブイリ原発事故38年の集い

地震列島日本に原発はいらない!

2024年 **4月21日** (日) 午後 1:30~4:30



ドーン・センター (4階, 第3大会議室)

京阪「天満橋」駅、Osaka Metro 谷町線「天満橋」駅

①番出入口から東へ約 350m

(資料代: 800円 学生・障がい者 400円)

プログラム

1. <事務局報告>

チェルノブイリ38年・フクシマ13年~ヒロシマ・ナガサキ80年に向けて

2. <お話し>

近藤 正道さん (弁護士・柏崎刈羽原発運転差止訴訟弁護団)

「地震大国日本に原発はいらない

~柏崎刈羽原発反対運動を軸に~」

3. <コメント> 能登半島地震について

長沢啓行さん (若狭連帯行動ネットワーク・資料室長)

4. <歌&演奏> アカリ・トバリさん

5. <メッセージ> チェルノブイリから: ベラルーシ「移住者の会」

6. 質疑・応答, 討論

7. アピール

【ゲストのプロフィール】

近藤正道さん:

1947年生まれ、77歳

柏崎高校、中央大学法学部 卒業

新潟県議会議員 4期、参議院議員 (社民) 1期

2020年、柏崎市長選を原発反対の立場で闘う

現在 弁護士 (新潟市西区在住)

柏崎刈羽原発運転差止訴訟弁護団

新潟県原水禁理事長



今年の元旦に能登半島地震が起こり、甚大な被害をもたらされました。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。運転停止中の北陸電力志賀原発にも基準地震動を超える揺れが襲い、外部電源を受電する変圧器で太さ50cmの冷却用配管の接続部に20cm長の亀裂が入り、また大量の油漏れで送電線の一部が使えなくなるなど重大な損傷を受けました。いまだに被害の全容は不明です。そして、重大事故時の避難計画は全く役に立たないことが白日の下に晒されました。

想定されていた以上の150kmの海底断層が連動し、また陸域の断層も含め広範囲に連動したことで、これまでの断層評価と基準地震動の見直しが不可避です。今回の地震は、地震列島の原発の危険性を改めて示し、チェルノブイリ、フクシマを繰り返させないためにも稼働中の原発はすぐに止めるべきです。

また、震源地の珠州での原発建設計画を凍結に追いこむ運動を担われた住民の方々が、甚大な被害を受けておられることにも私たちは心を痛めています。珠州原発反対運動は、1989年以降、大阪での「あしたが消える」のドキュメンタリー映画上映会(当時の連絡窓口は、今回コメント講師の長沢啓行さん)を契機に、日高原発反対運動(日高原発に反対する大阪の会の久保さん夫婦と日高の反対派漁民浜一巳さん)との交流がありました。長沢さんには当時の交流についてもお話し頂きます。もし珠州原発が建設されていたら…福島と同じような重大事故が起こり、しかも孤立した集落では避難もできず…と背筋が凍る思いです。

能登半島地震により新潟でも液状化などによる被害が出ています。能登半島と同じく、日本海側の福井(関西電力原発)、新潟も、度々地震に見舞われているのに、原発を次々と再稼働しようとする政府と電力会社の方針をなんとしても止めなければなりません。

福島で重大事故を起こし、あれほどの深刻な被害をもたらしている国と東京電力が、その反省もなく、被害者への賠償もまともに行わず、被害者支援を次々に切り捨て、その一方で、柏崎刈羽原発6・7号機を再稼働しようとしていることに、私たちが福島事故被害者の方々とともに、強い憤りを感じています。原発再稼働を前提に、会社「再建」計画を立て、「その収益で福島の被害者に賠償を行う」などと、政府も財界も本末転倒な主張で原発推進と東電の延命を行おうとしているのは言語道断です。

「集い」では、新潟から近藤正道さんをお迎えし、再稼働が目論まれている柏崎刈羽原発をめぐる現状、運動の実情などをお聞きし、新潟・福島ともつながって、関西で何ができるか等々話し合いたいと思います。多くの方々の参加を呼びかけます！



ウクライナ戦争の即時停戦を！

チェルノブイリ・ヒバクシャとの「顔の見える交流」再開を願っています！

問合せ：072-253-4644(猪又), chemo-kansai@titan.ocn.ne.jp

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西